



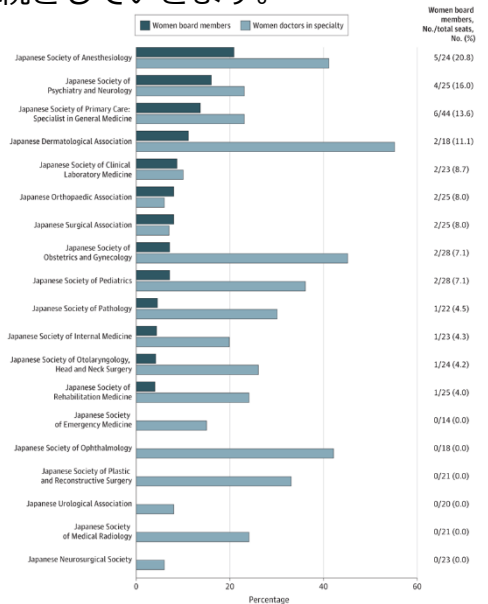
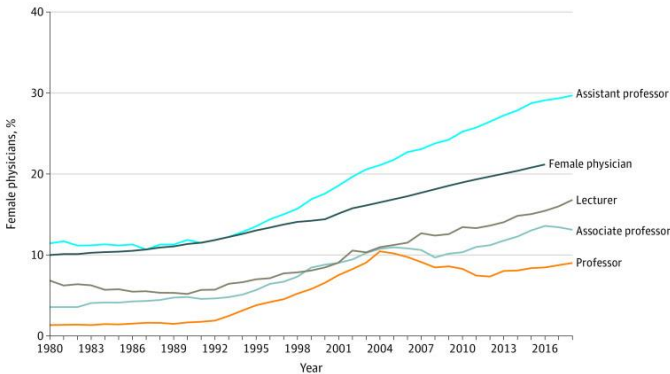
医学のジェンダーバイアスを見える化してしまう研究

医学部附属病院総合診療医センター 准教授 和足 孝之

2022年日本のジェンダーギャップ指数が発表されました。その指標の一つ、政治参加については146カ国中139位と最低ランクで話題になりました。有権者の約52%が女性であるにもかかわらず、衆議院・参議院を含めた日本の国会議員の女性比率は15.5%のみでOECD平均を大きく下回っているのです。実は驚くことなかれ、現時点での医療界では女性参画の状態は遥かに酷い状況です。我々が医学生や研修医と行った数々の研究では、全国のほぼ全ての大学の医学部長、院長は男性であり、主要19医学領域学会の理事長も全員男性でした。トップリーダーはほぼ男性しかない事実があります。学会理事の役職や大学の教授職も大体7-8%に過ぎません。しかもこの20年の間で他職種に比べて目に見えて改善されていません。

そう、我々の医療界では国会議員よりも少ない女性比率で運営されていると言えます。私たちはこの【事実を見える化】し、多くの人に一緒に考えてもらうことが何より必要だと考えました。我が国の医療が抱える様々な問題は改善困難と考え、データを図や表にして国際雑誌で発表しました。

日本が抱える少子高齢化と縮小する経済の問題、働き方改革、女性の出産・育児・教育における政策などの問題にも、国際的には女性リーダーの視点と積極的な意思決定の関与が何より有効であることが科学的に証明されています。未来の女性医師がリーダーシップを発揮できるように、我々の研究室では女子医学生や研修医を中心にジェンダーバイアス解消を目指して色々な研究発表を引き続きしていきます。



Kono K, Watari T, Tokuda Y. JAMA Netw Open. 2020 Jul 1;3(7):e209957.

Watari T, Gupta A, Kataoka H. JAMA Netw Open. 2022;5(12):e2247548.

Watari T, Tokuda Y. Nature. 2022 Nov;611(7934):33.